

◆環境課

☎ 587 - 6003

FAX 587 - 3834

☆旧の市指定ごみ袋
(シール)は、平成
24年3月31日まで
使えます!

生物多様性を脅かす 地球温暖化!

生物種の絶滅や、森林・湿原・藻場・サンゴ礁などの生態系の異変が地球規模で報告されています。こうした原因の一つが気候変動で、近年の急激な地球温暖化が大きく影響しているといわれています。

このまま温暖化が進み、「生物多様性」が失われ続けると、私たち人間にもさまざまな影響が及ぶかもしれません。

動物や微生物などの生物種は、およそ40億年もの長い時間の中で、個々が環境に適応しながら分化や進化をしてきました。

現在地球上には、明らかにされているもので約175万種、未知なものを含めると3000万種ともいわれる生物種があります。それらが、地球上のいろいろな生態域に適応しながら多様な生態系を形づくっています。これらさまざまな遺伝子や生態系が複

雑に関わりあっている状態が「生物多様性」といわれるものです。

私たちの生命を支える生物多様性

人間は生物多様性の恩恵なしには生きられません。食べ物のように直接与えられるものをはじめ、あらゆる面で私たちの生活を豊かにしてくれています。

このかけがえのない「生物多様性」が、今、急速に失わ

れようとしています。生物多様性の喪失を顕著に表わす例として「生物種の絶滅」の問題があります。生物種の絶滅には、開発、乱獲、自然の手入れ不足、外来種の持ち込みなど、人為的な原因が大きく関わっています。特に近年問題視されているのが「地球温暖化」による生物多様性への影響です。温暖化が進むと、2050年までに約100万の生物種が絶滅するという予測もあります。

生物種を守り生物多様性の崩壊を食い止めること、それは私たち人間に課せられた大きな責任であり、だからこそ、私たちは地球温暖化を食い止める活動に取り組む必要があります。



生物多様性を守りましょう!

●外来種を捨てない・持ち込まない

●山や川に廃棄物を不法投棄しない

●川に廃水を流して汚染しない

●高山植物を摘み取らない
●ペットは最後まで責任を持って飼う
●植樹や植林活動に参加する



地球温暖化を防ぎましょう!

●冷暖房の設定温度をこまめに調節し、過剰な使用を控える

●不要な照明をつけっぱなしにしない

●使っていない家電品などのコードを抜く

●マイバッグを持ち歩き、不要なレジ袋は断る

●紙や水の使用を減らす

●リサイクル(再生利用)やリユース(再使用)を実践する

●エコドライブを実践する

●公共交通機関を利用する

●CO₂排出量の少ない商品を購入する

●エコマークのついた商品を購入する

●地産地消を心がける

毎月第4土曜は 廃食油回収の日

5月28日(土) 午前10時~正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

「ごみゼロ大作戦」参加者募集!

6月5日(日)午前9時~11時 ※雨天中止

集合場所…菖蒲自治会館北側公園(駐車場は、菖蒲自治会館南側グラウンド)

清掃場所…あやめ浜、マイアミ浜周辺および湖岸道路

活動内容…ポイ捨てごみ、漂着ごみの回収および雑草の除去

滋賀県ごみの散乱防止に関する条例で定められた5月30日の「環境美化の日」を基準日として、本市では、びわ湖岸を中心に、企業、各種団体、市民が一体となって清掃活動を実施します。皆さんの参加をお待ちしています。

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(80)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【5月の休館日】月曜・火曜日・6日(金) ※3日は祝日開館

◆野洲駅開業 120 周年展「鉄道・駅・まち」
／ 6 月 26 日(日)まで

野洲駅や鉄道、まちのあゆみを資料や写真で紹介。展示解説 5 月 14 日(土)午後 2 時～

協賛…西日本旅客鉄道(株)京都支社

◆野洲駅開業 120 周年写真展／ 6 月 26 日(日)まで JR 野洲駅コンコースにて

◆赤米田植え／ 5 月 21 日(土)午後 2 時～4 時 弥生の森歴史公園で、古代の貫頭衣を着て赤米の田植えをしてみませんか。

参加費…無料／申し込み…電話にて博物館へ

野洲駅の開業と駅前通り

野洲駅は、この地に鉄道が開通した 2 年後の 1891 (明治 24) 年 6 月 16 日に開業しました。沿線でも早くに設置され、今年で 120 周年を迎える歴史ある駅です。

駅が置かれたのは小篠原字門田で、もともと水田が広がっていた所です。駅ができから、駅前通りや「駅前」の町並みが形成されていきました。この辺りは農村部でしたが、中山道に沿って野洲・行畑・小篠原と町並みが続きます。また、小篠原の西端には中山道と朝鮮人街道の分岐

点があり、交通の要衝でした。

草津、守山の宿場町や、近江八幡、彦根、長浜のような城下町では、町場に近い所に駅が設けられています。野洲駅も街道に近い利便のよい場所が選ばれたと考えられます。駅は貨物輸送の拠点になり、運送店が営業を始め、荷車や大八車、人力車が活躍します。また、駅前には商店が軒を連ね、旅館、うどん屋、下駄屋、新聞屋、床屋、銀行などがあり、にぎわいをみせていました。

写真は、大正期頃の野洲駅



野洲駅前（大正期頃）／田中潤吉さん提供

前です。南口の駅前通り、現在の「野洲駅前」信号付近から駅を望んだ様子です。遠くに見える中央の建物が駅舎で、手前を横切る道が朝鮮人街道です。さらに手前の橋は祇王井川にかけられたもので、右側には街灯、左側には大きな石柱があります。この石柱は今も立っていて、真宗木邊派本山の錦織寺への参詣者を案内する道標です。

もう一枚の写真も大正期頃のものです。裏書に「野洲駅員一同」とあり、前列向かって右から電信係 2 名、駅長、助役、駅夫 2 名と、後列の駅夫 5 名、総勢 11 名の駅員が野洲駅に勤務していたことがわかります。後列向かって左から 2 人目の若い駅員、山元清三郎さんは、30 年にわたる野洲駅に勤務されていました。駅前にあったうどん屋「おたふくや」の生まれで、1893 (明治 26) 年創業の店も、駅員や機関士と代々親しいつながりがありました。



野洲駅員（大正期頃）／山元和子さん提供

この当時の駅舎は初代の建物で、平屋の木造瓦葺きの姿がうかがえます。のちに 1938 (昭和 13) 年と 1972 (昭和 47) 年の二度の改築を経て、現在の駅舎になっています。駅の北口は、1972 年に今の駅舎に改修された時に設けられ、ロータリーや街路を整備して開発が進められました。

鉄道や駅は、地域の生活や産業、まちの発展に大きく関わってきました。これからも、わたしたち市民をはじめ、多くの人々の思い出とともに、その歴史を刻んでいくことでしよう。

(博物館学芸員 行俊勉)